

指定管理者制度導入施設 年度評価シート

評価年度	令和4年度
------	-------

1 基本情報

公の施設名	相模原市立障害者支援センター松が丘園、相模原市立けやき体育館
指定管理者名	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日まで(5年間)
施設設置条例	相模原市立障害者支援センター条例、相模原市立けやき体育館条例
施設の設置目的	<p>【障害者支援センター松が丘園】 障害者の自立と社会的活動への参加を促進し、もって障害者の福祉の増進に寄与する(条例第2条)。 ※障害福祉サービス事業の多機能型事業所(生活介護、自立訓練、就労移行支援、就労継続支援B型、就労定着支援)及び地域生活支援事業の基幹相談支援センター等を実施</p> <p>【けやき体育館】 障害者の健康の増進、機能の回復及び教養文化活動の促進を図り、もって障害者の福祉の向上に寄与する(条例第2条)。</p>
施設概要	<p>【障害者支援センター松が丘園】 ○所在地:相模原市中央区松が丘1丁目23番1号 ○敷地面積:2,388.00㎡ ○延床面積:2,703.45㎡ ○構造:鉄筋コンクリート造、地下1階地上3階建 ○主な諸室:1階:作業室、ケアルーム、相談室、保健室 2階:作業室、相談室、食堂兼多目的ルーム、その他更衣室等 3階:団体活動室、生活指導室、研修室</p> <p>【けやき体育館】 ○所在地:相模原市中央区富士見6丁目6番23号 ○敷地面積:4,058.72㎡のうち2,252.87㎡ ○延床面積:1,723.37㎡ ○構造:鉄筋コンクリート造陸屋根亜鉛メッキ鋼板葺2階建 ○主な諸室:体育室、機能訓練室、更衣室、教養室、和室、教室</p>
施設所管課	健康福祉局 地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課

2 管理実績

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
松が丘園	多機能型事業所利用者数(人) (うち生活介護利用者数(人))	9,408 (1,523)	9,410 (1,535)	9,806 (1,692)	9,354 (1,611)	9,587 (1,633)	9,224 (1,878)
	時ケア事業利用者数(人)	2,043	2,032	1,774	1,204	1,170	1,067
	自立支援給付費合計(円)	86,465,172	81,735,341	100,595,386	94,228,589	99,370,110	93,472,457
	利用者負担金合計(円)	4,196,163	3,990,150	3,853,180	3,528,487	3,533,532	3,268,268
	収入総額(円)	454,102,139	464,160,239	360,339,529	357,442,538	374,016,018	406,738,603
	支出総額(円)	345,985,068	463,833,759	360,339,529	357,442,538	374,016,018	406,738,603
けやき体育館	利用者数合計(人)	67,135	60,325	58,259	18,325	27,604	37,736
	障害者利用人数合計(人)	22,084	19,935	19,861	7,028	11,109	15,363
	利用料金合計(円)	2,426,919	2,127,375	2,235,310	998,855	1,407,365	1,803,028
	貸館率(%)	68.0	68.0	68.3	45.2	50.9	52.4
	収入総額(円)	54,329,919	68,181,375	55,578,892	51,917,585	53,782,818	58,620,109
	支出総額(円)	54,329,919	68,181,375	55,578,892	51,917,585	53,782,818	58,620,109

3 成果指標の達成度

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
D	<p>成果指標の達成度は79.5(両施設の平均)であり、評価基準により「D評価」とする。</p> <p>【障害者支援センター松が丘園】 年間就労者数は目標値を下回っているが、就労援助センターの登録者数(1,039人→1,135人)や、登録者のうち就労している在職者数(691人→745人)は増加しており、支援のニーズが就労時の支援から就労後の定着支援に変化していることが伺える。</p> <p>【けやき体育館】 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の利用人数制限の影響などもあり、目標値を大きく下回っている。5類移行後は制限の緩和などを行うとともに、更なる利用拡大に努めていただきたい。</p>

指標 1	障害者支援センター松が丘園
指標名 (単位)	年間就労者数 単位:人
指標式と指標の説明	施設を利用し、就労する障害者が増えることにより、障害者の自立と社会参加が推進されるため、就労支援事業利用登録者のうち、一般就労に結びついた人数を成果指標とする。

項目 (単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値 (人)	47	50	52	54	56	58	60
実績値 (人)	67	62	88	70	62	52	/
達成度 (%)	142.6%	124.0%	169.2%	129.6%	110.7%	89.7%	0.0%

指標 2	けやき体育館
指標名 (単位)	障害者の年間延利用人数 単位:人
指標式と指標の説明	施設を利用する障害者が増えることにより、市内の障害者の健康の増進や教養文化活動の促進が図られるため、障害者の年間利用者数を成果指標として設定する。

項目 (単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値 (人)	—	—	21,900	22,000	22,100	22,200	22,300
実績値 (人)	21,969	19,935	19,861	11,924	13,301	15,363	/
達成度 (%)	—	—	90.7%	54.2%	60.2%	69.2%	0.0%

※令和2年度の実績値は、令和2年4月1日から6月18日、令和3年1月13日から3月21日の間は休館していたことを考慮し、実績値は11,924人とする。

※令和3年度の実績値は、令和3年8月6日から9月30日の間は休館していたことを考慮し、実績値は13,301人とする。

4 事業の実施状況

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
S	<p>事業の実施状況の達成度は121.9%(両施設の平均)であり、評価基準により「S評価」とする。</p> <p>【障害者支援センター松が丘園】 医療的なケアが必要な方の受け入れや障害福祉サービス事業所等の職員の資質向上のための取組など、本市の障害者支援の中核的な役割を果たす専門性の高い事業を実施している。 令和4年度は、特に障害福祉サービス事業所等の職員向けの研修において、受講しやすい実施方法や日々の支援に活かすことができる内容としたことにより受講者数が大幅に増加しており、高く評価できる。</p> <p>引き続き質の高い支援等を継続することと併せて、けやき体育館との連携による支援の充実にも取り組んでいただきたい。</p> <p>【けやき体育館】 オンラインと対面のハイブリッド形式で、講座を行うなど、利用者の安全・安心を確保をしたうえで、より多くの方が参加できるように工夫を行いながら事業実施に努めている。 また、企画提案事業の「障害者地域就労援助・けやき相談センター」については、昨年度の相談件数を上回っており、松が丘園との連携による効果が見えているため、引き続き取り組んでいただきたい。</p>

市が指定する事業			
障害者支援センター松が丘園			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
障害福祉サービスを行う事業	通年	年間利用者9,224人(生活介護1,878人、自立訓練3,204人、就労移行支援2,008人、就労継続支援B型2,134人) 就労定着支援契約者20人 医療的ケア実施数1,954回(うち人工呼吸器管理43回) 重症心身障害児者ネットワーク会議開催 就労者9人、職業評価実施8人	◎
基幹相談支援センターとして行う事業	通年	総合相談・専門相談 25,169件、 虐待防止・権利擁護に関する研修 6回、 スーパーバイザー派遣事業 132件、 相模原市障害者自立支援協議会 61回	○
障害者の就労を支援する事業に関する業務	通年	新規就労者52人 (上記「障害福祉サービスを行う事業」の9人を含む) 職場実習のべ119日	○
障害者を一時的に介護する事業に関する業務	通年	登録者305人、年間利用者1,067人 (うち医療的ケアの必要な者74人・困難要因のある利用者156人)、障害者一時ケア事業所連絡会開催	◎
障害者の支援に関する事業に従事する人材の確保及び育成に関する業務	通年	研修開催56回、研修のべ参加者1456人 オンライン研修を適宜実施し、専門職にとって必要だと思われる内容を多く組み入れた結果受講者増につながった。	◎
けやき体育館との連携に関する業務	通年	けやきカフェを活用した体験実習 8件 けやき体育館内に就労相談窓口を開設し、 就労相談者に対応 障害福祉サービス事業所の求人情報を常時閲覧できる 「就職情報コーナー」の運営	○

企画提案事業			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
なし			

自主事業			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
なし			

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
障害者のスポーツ及び文化活動の支援に関する業務	通年	<p>★コロナウイルス感染症拡大防止のために実施すべき事項を定めた実施要項に基づき、各種講座を実施。一部講座はZOOMによるオンラインと対面の同時開催で実施。(障害者対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツ講座 4講座、19回、303人(うち障害者212人) ・ふれあい文化講座 2講座、4回、66人(うち障害者48人) <p>オンラインの開催で、事業所単位での参加もあり、障害のある方が安全にスポーツを楽しめるとの意見をいただいている。</p> <p>★車いすテニス等のパラスポーツ体験会、パラスポーツ大会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラスポーツ体験会 3種、9回、201人 ・ポッチャ大会～けやき杯～ 10チーム(1チーム3人) <p>★パラスポーツ訪問指導の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9件、10日 <p>★パラスポーツの普及啓発、障害及び障害のある方への理解・啓発を目的に障害者週間に合わせた「けやきウィーク」を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VRチェアスキー、ブラインドサッカー等のパラスポーツ体験ほか、工作、似顔絵、けん玉を実施。実施に当たっては、体育館利用団体や地域活動団体等に協力を依頼。 ・パラアスリート写真展示 ・「アートラボはしもと」とのコラボ「あつまれ☆ダンポスター」と題した段ボール制作による装飾及び工作コーナーの実施 <p>★障害のある方がその人らしい表現に取り組める文化活動として季節の作品を募集。館内ロビーにて掲示し、来館者に披露。</p> <p>パラスポーツを通じ、障害のある方とない方が自然とコミュニケーションを図り、楽しく過ごしており、共生社会の実現へとつながっている。</p>	◎
障害者余暇活動支援事業の実施に関する業務	通年	<p>★障害のある方を対象に、事前申込みなしで、気軽に参加でき、ボランティアと一緒に楽しむ「きままシリーズ」を実施した。一部は、障害の理解促進、パラスポーツの普及を目的に、障害のあるなしに関わらず誰もが参加できることとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カローリング&ポッチャ、卓球&バドミントンなどのスポーツ系 3種、36回、678人(うち障害者375人) ・将棋、アートの文化系 2種、24回、174人(うち障害者112人) <p>事前申込の必要がなく、その日の気分で好きな時間に参加出来ることから、障害のある方、ボランティアともにプレッシャーを感じる事がなく、継続して参加できると好評をいただいている。</p> <p>★障害の有無にかかわらず誰もが参加できる地域交流イベントを開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 2種、42人(障害者14人) <p>★障害のある方が演奏やダンスなど日ごろ練習しているものの成果を発表する「何でも発表会」を開催 出演 団体3・個人1人、観覧10人</p>	◎
障害者支援センターとの連携に関する業務	通年	<p>★就労援助事業との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けやきカフェにおいて就労を目指す障害者の実習の受入れを実施。 8人、37日 ・「障害者地域就労援助・けやき相談センター」において、就労援助センターと連携した相談を実施。(新規28件、連携した相談68件) <p>★多機能型事業所自立訓練事業との連携として、インターンシップ(職業体験)の受入れを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 7人、14日 <p>★福祉研修センターとの連携として、「レクリエーション支援研修」(地域でスポーツを楽しむ工夫)を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> 14人、1日 <p>研修で学んだことを、事業所や地域で取り入れ、障害のある方から好評だったとの感想をいただいている。</p>	○

体育館の利用の承認等に関する業務	通年	障害者団体の優先利用を基本原則として諸室の貸出しを行った。感染症拡大防止対策に取組みながら、来館者が安心して積極的にスポーツやレクリエーション活動が楽しめるよう、支援した。	○
体育館の施設等の維持管理に関する業務	通年	利用する団体等が適切に施設の利用が出来るよう、日々の巡回・点検の他、定期的な法定点検などを行うとともに、環境配慮への取組みとした照明設備のLED化や経年劣化による設備の修繕などを行った。	○
利用の促進に関する業務	通年	施設利用案内や障害者スポーツ、レクリエーション等の情報提供および余暇支援事業の広報活動として、けやき体育館通信の発行の他、公式X(旧Twitter)、けやき体育館ホームページを利用した情報提供を行った。 (通信発行6回、旧Twitterの投稿347回) 旧Twitterによる即時性のある情報等の周知や、新たな利用者の獲得につながっている。	○

企画提案事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
障害者地域就労援助・けやき相談センター	通年	新規相談28件の対応ほか、就労援助センターと連携した相談を68件行った。	◎

自主事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
けやきカフェの運営	通年	感染症拡大防止のために実施すべき事項を定めた要項に基づき、座席数及び入店人数の制限を行うなどの感染症対策を取りながら運営。松が丘園麦の穂のパンを取り入れたメニューの提供や、テイクアウトを実施。就労を目指す障害者の職場実習の受入れ。244日営業。	○

5 利用者の満足度

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
A	<p>目標値の達成度は、104.5%(両施設の平均)であり、評価基準により「A評価」とする。</p> <p>【障害者支援センター松が丘園】 いずれの事業も満足度が向上しており、医療的なケアが必要な方や他の事業所の利用が難しいなど困難要因のある方を受け入れている中で、質の高いサービスを提供できていることが分かる。調査結果を分析し、満足度の維持に努めていただきたい。</p> <p>【けやき体育館】 満足度は100%に近い実績値で、特に職員の対応に対する満足度は高いものとなっており、利用者が安心して施設を利用していることが伺える結果である。一方で、昨年度に引き続き、不満の理由としては暑さ対策等の施設の設備に関するものが多いが、早期な改善が難しい中で、業務用の扇風機の導入を行うなど可能な範囲で、利用者の希望に応えようと工夫している。</p>

利用者満足度調査	障害者支援センター松が丘園
調査手法/サンプル数	多機能型事業所及び一時ケア事業の利用者を対象に調査票を配布 多機能:実施期間 令和4年10月1日～10月31日 サンプル数 54件 一時ケア:実施期間 令和4年10月1日～10月31日 サンプル数 55件
目標値の基準	4段階評価のうち「満足」「まあ満足」と回答した人の割合の合計

項目 (単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値 (%)	91.1	91.7	92.3	92.9	93.5	94.1	/
実績値 (%)	95.0	97.5	96.0	95.9	95.7	98.2	/
達成度 (%)	104.3%	106.3%	104.0%	103.2%	102.4%	104.4%	#DIV/0!

利用者満足度調査	けやき体育館
調査手法/サンプル数	施設利用者に窓口で調査票を配布 実施期間:令和4年10月4日～10月31日 サンプル数:137件
目標値の基準	「施設を利用しての満足度はいかがですか。」の問いに対する4段階評価のうち「全体的に満足」「全体的にある程度満足」と回答した人の割合の合計

項目 (単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値 (%)	91.1	91.7	92.3	92.9	93.5	94.1	/
実績値 (%)	97.8	97.2	89.3	99.3	100.0	98.4	/
達成度 (%)	107.4%	106.0%	96.7%	106.9%	107.0%	104.6%	#DIV/0!

その他の取組	けやき体育館	
取組事項	時期	取組内容
ご意見箱の設置	通年	ご意見・ご要望シート、ご意見箱をロビーに設置している。
使用点検カードに意見欄の設置	通年	施設利用時に提出していただいている使用点検カードに気づいた点等の意見を自由に記載できる枠を設けている。日々の利用で気づいた点などを記載していただくことで、対応可能なものから、即時性のある対応が出来る。

6 施設の経営状況

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
S	<p>期末総資産は約10億円であり、自己資本は4.5億円と厚みがある。令和5年3月期のサービス活動収益は7.2億円(内指定管理料事業収益2.9億円)を計上、サービス活動増減差額は-4百万円と赤字ではあるが、補助金等もあり経常増減差額は3期連続黒字であり安定性が認められる。手許資金も潤沢にあり、資金面での不安は少ない。</p> <p>指定管理者遂行に関して懸念のない財務状況であるとする。</p>

施設の収支概要		※直近3年間について記載 (千円)		
項目		令和2年度	令和3年度	令和4年度
収入 (a)		409,361	427,799	465,358
	指定管理料	250,575	250,657	242,196
	利用料金収入	1,880	2,322	2,666
	その他の収入	156,906	174,820	220,496
支出 (b)		409,361	427,799	465,358
	人件費	254,500	251,225	274,271
	本社管理経費	0	0	0
	その他の支出	154,861	176,574	191,087
本体事業収支 【(a)-(b)】 (c)		0	0	0
自主事業収入 (d)		2,276	2,773	3,544
自主事業支出 (e)		2,276	2,773	3,544
自主事業収支 【(d)-(e)】 (f)		0	0	0
全体収支 【(c)+(f)】		0	0	0
備考				

団体の財務状況	団体本体の経営状況について特段の問題はない。
---------	------------------------

7 管理業務の履行状況

検査方法	施設所管課職員による現地確認及びヒアリング
実施時期	【障害者支援センター松が丘園】令和5年2月13日 【けやき体育館】令和5年2月15日

検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	
有	情報セキュリティ強化のため、UTM装置の設置を行った。	

8 ウェブアクセシビリティ

ホームページの作成	有
-----------	---

ウェブアクセシビリティの取組項目	取組状況
機種依存文字を使っていない。	○
ページ内の文字の大きさを変えることができる。	○
単語の途中にスペースや改行を入れていない。	○
ページ内容を的確に表しているタイトルが付いている。	○
ダウンロードできるファイルには、ファイルの種類とサイズを記載している。	○
画像には、代替テキスト等を付与し、支援技術利用者にも適切な代替情報を提供している。	○
背景色と文字色にコントラストを確保するなど、色使いに配慮している。	○
その他取り組んでいること	【障害者支援センター松が丘園】 令和4年度からファイルのサイズを記載している。 【けやき体育館】 週に1回以上の更新を行っている。

9 指定管理者の自己評価

【障害者支援センター松が丘園】

・生活介護事業では、医療的ケアのある人を含む重症心身障害者が、安心して利用できる体制を継続的に整えることができた。

・一時ケア事業では、医療的ケアのある人の利用ニーズに対応し、医療的ケアの必要な利用者については利用者数が増加した。

・利用者満足度調査において、全体的な満足度は昨年度よりも高く、利用者からの評価は高い水準を維持し続けている。

・障害者支援に関して、就労援助センターの登録者数は毎年増加しているが、登録希望者のニーズは継続的な定着支援である。企業側のコンプライアンス遵守と就労支援関連の障害福祉サービス事業者の増加により、移行支援事業者や企業側、支援学校からも含めて就労後の定着支援のニーズが著しい。これは、支援ニーズの内容が就労することがゴールの支援から、就労後の定着支援に移行しつつあるといえる。さらに、他の支援機関では支援が難しい就労までのプロセスに時間を要する人への対応や準備性が脆弱な人への丁寧な対応を実施していることにより、就労に結びつくまでに時間がかかることが多くなってきた。これらの要因により、令和4年度は指標の就労者数に至ることができなかった。基幹相談支援センターについては、相談件数や協議会の回数が増加するなど活性化し、市内の中核的なセンターとしての役割を果たすことができた。福祉研修センターは、オンラインを活用した研修の実施等により、参加者数が、昨年度に比して164%となり、福祉従事者の更なる質の向上に努めることができた。

【けやき体育館】

・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策となる利用人数の制限等の影響を引き続き受け、成果指標1の障害者の年間延べ利用人数の達成は難しい状況である。「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（スポーツ庁）の令和4（2022）年度の統計では、スポーツ実施率が軒並み低下し、実施したスポーツの種別ではウォーキング等の屋外活動が圧倒的に多く、環境が変化したと感じる人が多い状況にある。スポーツ実施では屋内を選択しないという社会的環境要因がある中、コロナ禍以前の利用状況への回帰には時間がかかると思われるが、徐々に改善してきており、施設利用団体の活動再開や余暇活動支援事業参加者数等は徐々に増加し、令和3年度比では障害者利用人数は約38%増の4,254人となり増加傾向となっている。令和5年度以降、まだ再開していない障害者サークル団体の活動やイベントの通常開催に伴い更なる利用人数の増加を見込む。

・余暇活動支援事業として、地域活動団体や他機関と協力して事業を行うなど、それぞれの特長を活かした事業を展開することで、障害者の余暇の充実を図るとともに、共生社会の実現に向けた余暇活動の支援に取り組んだ。

・年間を通して、季節の作品を募集し、館内に展示することで、来館者に障害のある方の取り組みを発信することが出来た。

10 所管課意見

【障害者支援センター松が丘園】

・医療的なケアが必要な方や他の事業所の利用が難しいなど困難要因のある方を受け入れている中でも利用者からの満足度は向上していることは、職員の支援技術の向上や利用者との信頼関係の構築などに取り組んだ成果であり、高く評価できる。

取り組みの中で得た経験等は市内の障害福祉サービス事業所等へ伝達・共有し、市全体の障害者支援の質の向上につなげていただきたい。

【けやき体育館】

・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染防止対策を講じながらの事業運営が求められたが、作成した実施要項に基づき、利用者の安全に考慮したうえで事業を実施するとともに、オンライン参加と対面参加を組み合わせるなど、事業への参加人数を増やす工夫が行われており評価する。

・障害者余暇活動支援事業の実施に当たっては、他の機関と連携した事業の実施や、障害のある方とない方が一緒に参加できる事業を実施し、共生社会の推進に資する事業展開がされている。引き続き、本市で唯一無二の障害者を対象としたスポーツ・文化施設として、指定管理者のノウハウを生かした事業の実施を期待する。

11 選考委員会意見

【障害者支援センター松が丘園】

<評価した点>

・高い専門性をもって事業を実施している。
・コロナ禍で試みた新たな支援方法(オンラインの活用等)を有効なものは5類移行後も活用して支援の質の向上に取り組んでおり、実績にも反映されているため評価するとともに、引き続き実施をしていただきたい。

<今後期待する点等>

・より重度の方の就労支援について、積極的に雇用につながるような支援をしていただきたい。

【けやき体育館】

<評価した点>

・講座等については、引き続きオンラインと対面の同時開催をするなど、利用者の安全に考慮しながら参加者を増やす工夫が行われている。

・けやきウィークを含む、パラスポーツ体験会については、様々な競技を実施するなど、障害の有無にかかわらず、多くの人が参加できるように工夫が行われている。

<今後期待する点>

・障害のある方が優先的に使える施設という性質はあるが、共生社会の実現を担えるような施設として、管理を行っていただきたい。

・新型コロナ対策の人数制限の緩和などだけでなく、5類移行後の利用者の増加に向けた取り組みを期待する。

総合評価 (自動判定)

A

(75/100)

